

6. 鳥類

6-1 鳥類相の特徴

岐阜市で記録した鳥類は、表 6-1 のとおり 57 科 231 種で、これは県全域で記録のある鳥類(310 種)の約 75%にあたる。岐阜市は北部が標高 200~300m の低山が続き、南部は平地となりほぼ中央を長良川が流れている。山林、農耕地、果樹園、河川、市街地など様々な環境を有していることから、それぞれの環境を好む鳥類が生息しており、面積の割に鳥類相は豊かであると言える。

山林では、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロなどの小鳥類やキツツキ類が普通に見られ、数は少ないが猛禽類も生息している。一年を通じてオオタカやフクロウが見られるほか、夏鳥¹⁹のハチクマやサシバも繁殖する。これらの猛禽類は食物連鎖の頂点に立っている。河川流域ではイカルチドリやイソシギが繁殖し、冬季にはマガモやヒドリガモなどのカモ類が越冬する。近年は、伊自良川、鳥羽川、天王川、荒田川などの小河川にもカモの姿が見られるようになり、百ヶ峰山麓の松尾池ではオシドリが越冬する。中南部の広い水田地帯ではケリやヒバリが繁殖するほか、春と秋には渡り途中のシギやチドリの仲間が羽を休める。これらの鳥の多くは渡り鳥で広い干潟や河口付近を主な中継地とするが、岐阜市は内陸にありながら国内の約半数のシギ・チドリ類を見ることができる。

231 種のうち、過去 1~数回の記録のものが 70 種ほどおり、市内で観察される鳥は通年で 150~160 種類である。

6-2 岐阜市を代表する鳥類

金華山や百ヶ峰は、市民のシンボルとしてあるいは「ふれあいの森」として親しまれ、よく保全されている。また、市北部の山林は谷部が農地や宅地に利用され、里山的環境となっている。このような環境を代表する鳥としては、大型の鳥ではオオタカが挙げられ、市内の山林に数番いが繁殖している。オオタカやフクロウを生態系の頂点として、カラ類、キツツキ類、メジロ、ウグイスなどの小鳥類が見られ、夏鳥としてキビタキやオオルリが渡来する。三田洞のふれあいの森には、毎年サンコウチョウが渡来し、市内では数少ない繁殖地となっている。林縁部では、ホオジロやモズを普通に見ることができる。

農耕地を代表する鳥としては、キジ、ヒバリ、ケリなどがあげられる。休耕田として長年放置された所ではヨシが発達し、夏鳥のオオヨシキリが繁殖する。

河川流域の鳥としては、砂礫地ではイカルチドリが、草地ではカルガモやイソシギ、セグロセキレイなどが繁殖する。小河川ではカワセミの姿をよく見かける。カワセミは土手に穴を掘って巣にするが、近年はコンクリートの護岸が増えたため、川から離れた場所に営巣している所もある。市街地の鳥としては、スズメ、キジバト、カラス類が優占している。

¹⁹ 夏鳥：夏季に渡来して繁殖期をおくる鳥類。

表 6-1 生息記録のある鳥類(1/5)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
キジ目	キジ科	ウスラ	<i>Coturnix japonica</i>	○	○	
		ヤマトリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	○	○	○
		キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○	○
		コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	○	○	○
カモ目	カモ科	マガン	<i>Anser albifrons</i>	○	○	
		コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	○	○	
		オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	○	○	
		オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	○	○	○
		オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○	○	○
		ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	○	○	○
		ヒトリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○	○
		アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	○		○
		マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○
		カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○	○
		ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>	○	○	○
		オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○	○	○
		シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	○	○	
		トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	○	○	
		コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○	○
		ホシハシロ	<i>Aythya ferina</i>	○	○	
		メジロガモ	<i>Aythya nyroca</i>	○	○	
		キンクロハシロ	<i>Aythya fuligula</i>	○	○	
		スズガモ	<i>Aythya marila</i>	○	○	
		ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	○	○	
		ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	○	○	○
		カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>	○	○	○
		ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>			○
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○	○
		アカエリカイツブリ	<i>Podiceps griseogen</i>		○	
		カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	○		○
		ハシロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>		○	
ハト目	ハト科	カワラハト(トハト)	<i>Columba livia</i>		○	○
		キジハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○
		アオハト	<i>Treron sieboldii</i>	○	○	○
ミスナキドリ目	ミスナキドリ科	オオミスナキドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>	○	○	
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>			○
カワウ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○
ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	○	○	
		オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	○	○	
		ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	○	○	
		ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○
		ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	○	○	○
		アカガシラサギ	<i>Ardeola bacchus</i>		○	
		アマサギ	<i>Bubulcus ibis</i>	○		○
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○
		ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea</i>			○
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	○
		チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○	○	○
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○

表 6-1 生息記録のある鳥類(2/5)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
ツル目	クイナ科	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	○	○	
		ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>		○	
		ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	○	○	
		バン	<i>Gallinula chloropus</i>	○	○	
		オオバン	<i>Fulica atra</i>	○	○	
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	○	○	○
		ホトキス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○	○	○
		セグロカッコウ	<i>Cuculus micropterus</i>		○	
		ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	○	○	○
		カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	○	○	
ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	○	○	
アマツハメ目	アマツハメ科	ハリオアマツハメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	○	○	
		アマツハメ	<i>Apus pacificus</i>	○	○	
		ヒメアマツハメ	<i>Apus nipalensis</i>	○	○	
チドリ目	チドリ科	タケリ	<i>Vanellus vanellus</i>	○		○
		ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	○	○	○
		ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	○		○
		イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	○	○	○
		コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○	○	○
		シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○	○	○
		メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○	○	
	セイタカシギ科	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>		○	
	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	○	○	
		オオシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	○		○
		チュウシギ	<i>Gallinago megala</i>		○	○
		タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	○		○
		オオハシギ	<i>Limnodromus scolopaceus</i>		○	
		オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>			○
		チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○	○	
		ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	○	○	
		コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>			○
		アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	○		○
		クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	○		○
		タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	○	○	○
		キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○		○
		ソリハシギ	<i>Xenus cinereus</i>	○		○
		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○	○	○
		キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	○	○	
		トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	○		○
		オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>	○		○
		ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	○		○
		ウスラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	○	○	
		サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>		○	
		ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○	
エリマキシギ		<i>Philomachus pugnax</i>		○		
アカエリヒアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	○	○			
タマシギ科	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	○	○	○	
ツバメチドリ科	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>			○	
カモメ科	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○	○		

表 6-1 生息記録のある鳥類(3/5)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
チドリ目	カモメ科	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	
		セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	○	○	
		コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>	○		○
		セグロアシサシ	<i>Sterna fuscata</i>	○	○	
		アシサシ	<i>Sterna hirundo</i>	○	○	
		クロハラアシサシ	<i>Chlidonias hybrida</i>			
タカ目	ミサコ科	ミサコ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○
	タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○	
		トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○
		チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	○	○	
		ハイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	○	○	○
		アカハラタカ	<i>Accipiter soloensis</i>	○	○	
		ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	○	○	
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	○
		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	○	○	○
		サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○	○
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○	○
		ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>	○	○	
		イヌワシ	<i>Aquila chrysaetos</i>	○	○	
		クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	○	○	
フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	○	○	
		コノハズク	<i>Otus sunia</i>	○	○	
		フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○	○	
		アオハズク	<i>Ninox scutulata</i>	○	○	
		トラフズク	<i>Asio otus</i>		○	○
		コミスズク	<i>Asio flammeus</i>	○	○	
サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>	○	○	
ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	○	○	
		カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○
		ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	○	○	
	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>			○
キツツキ目	キツツキ科	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	○	○	
		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	○	○	○
		オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	○	○	
		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	○	○	○
		アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○	○	○
		コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	○		○
		チコハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	○	○	
		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○	○	○
スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	○	○	
	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○
	コウライウグイス科	コウライウグイス	<i>Oriolus chinensis</i>	○	○	
	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	○
	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○
		アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	○	○	
	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○
		ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>	○	○	
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○

表 6-1 生息記録のある鳥類(4/5)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
スズメ目	カラス科	ハシブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○
	キウイタダキ科	キウイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	○	
	ツリスガラ科	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>	○	○	
	シジュウカラ科	コガラ	<i>Poecile montanus</i>	○	○	
		ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	○	○	○
		ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	○	○	
		シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	○
	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○
	ツバメ科	ショウトウツバメ	<i>Riparia riparia</i>	○	○	
		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○
		コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○	○
		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○	○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○
	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○
		ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	○	○	○
	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○
	ムシクイ科	キマコムシクイ	<i>Phylloscopus inornatus</i>		○	
		メホソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodyras</i>	○	○	
		エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	○	○	○
		センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○	○	○
	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○	○
	センニュウ科	エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>		○	
	ヨシキリ科	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○		○
		コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>		○	
	セッカ科	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○		○
	レンジヤク科	キレンジヤク	<i>Bombycilla garrulus</i>	○	○	
		ヒレンジヤク	<i>Bombycilla japonica</i>	○	○	
	ゴシジュウカラ科	ゴシジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	○	○	
	ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○	
	チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>		○	
	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○
		コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	○	○	○
	カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	○	○	
	ヒタキ科	マミシロ	<i>Zoothera sibirica</i>	○	○	
		トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	○	○	○
		クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○	○	○
		マミチャジナイ	<i>Turdus obscurus</i>			○
		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○	○
		アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	○	○	○
		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	○
		コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	○		○
		ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	○	○	
		コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	○	○	○
		ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	○	○	
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureorus</i>	○	○	○
		ハビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	○	○	
		イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○	○	○
		エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○	○	
	サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	○	○		

表 6-1 生息記録のある鳥類(5/5)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地		
スズメ目	ヒタキ科	コサビ ^レ タキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	○	○			
		キビ ^レ タキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○	○		
		ムギ ^レ マキ	<i>Ficedula mugimaki</i>	○	○			
		オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	○		
イワヒバリ科		ヤマヒバリ	<i>Prunella montanella</i>		○			
		カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	○	○			
スズメ科		ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	○	○			
		スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○		
セキレイ科		イワミセキレイ	<i>Dendronanthus indicus</i>	○	○			
		キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○		
		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○		
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○		
		ビンスイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	○		
		タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	○	○	○		
アトリ科		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○			
		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	○		
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○			
		ベ ^レ ニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>	○	○			
		ハギ ^レ マシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	○	○			
		ベ ^レ ニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	○	○	○		
		オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>	○		○		
		イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	○	○			
		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	○	○			
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	○		
		コイカル	<i>Eophona migratoria</i>	○	○			
		イカル	<i>Eophona personata</i>	○	○	○		
		ホオジロ科		ホオジロ	<i>Emberiza coides</i>	○	○	○
				シロハラホオジロ	<i>Emberiza tristrami</i>	○	○	
ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>			○	○			
カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>			○	○	○		
ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>			○	○			
ノゾコ	<i>Emberiza sulphurata</i>			○	○	○		
アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>			○	○	○		
クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>			○	○			
オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	○	○					
20目	57科	231種		205種	205種	122種		

注)表中の「文献」「資料」の欄は、13-3-1に示した「文献」「資料」に記載のあった種を示す。また「現地」については、2009～2013年度に実施した現地調査で記録された種を示す。

6-3 重要な鳥類

市内で確認されている重要な鳥類²⁰は表 6-2 のとおり 28 科 53 種で、全生息種数の 23%にあたる。タカ科やフクロウ科の鳥類いわゆる猛禽類が多く、留鳥²¹としてオオタカ、フクロウ、夏鳥のサシバ、ハチクマがわずかであるが山林で繁殖している。アオバズクは、以前は市街地の大きな木のある公園や寺社林で繁殖していたが、近年はほとんど見られなくなった。ハヤブサは本来、海岸の崖地に営巣する鳥であるが、近年は内陸部での繁殖も知られるようになってきており、金華山の達目洞側の崖地で毎年営巣するようになった。湿地に生息するタマシギは、市内では休耕田の散在する広い水田地帯で繁殖していたが、近年著しく減少し、現在では 2~3 ヶ所での姿を見るだけである。2012 年に改訂された環境省レッドリストに情報不足種として挙げられたケリは、市内の農耕地に広く分布しているが、最近繁殖成功率が低下しており、今後の生息が懸念される。夏鳥として渡来し砂地で繁殖するコアジサシは、長良川の中洲で集団繁殖をしていたが、最近は見られなくなった。ヒナのほとんどがカラス類やチョウゲンボウに食べられたのが原因の一つと考えられる。重要種のうち、過去の記録が 1~数回のものが 17 種あり、これらは渡りの途中で確認されたものと思われる。

重要な鳥類の概要・分布状況などについては、表 6-3 のとおりである。

表 6-2 岐阜市内で生息記録のある重要な鳥類(1/2)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
キジ科	ウズラ					絶滅危惧Ⅱ類	
	ヤマドリ						準絶滅危惧
カモ科	マガン	天然記念物				準絶滅危惧	
	オシドリ					情報不足	準絶滅危惧
	トモエガモ					絶滅危惧Ⅱ類	
カイツブリ科	カイツブリ					準絶滅危惧	
ハト科	アオハト					情報不足	
コウノトリ科	コウノトリ	特別天然記念物	国内希少野生動植物種			絶滅危惧ⅠA類	
サギ科	ヨシゴイ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	オオヨシゴイ					絶滅危惧ⅠB類	
	ミゾゴイ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	チュウサギ					準絶滅危惧	
クイナ科	ヒクイナ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
ヨタカ科	ヨタカ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
アマツハメ科	ハリオアマツハメ						情報不足
トドリ科	ケリ					情報不足	
	シロトドリ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
セイタカシギ科	セイタカシギ					絶滅危惧Ⅱ類	
シギ科	オオシギ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	ツルシギ					絶滅危惧Ⅱ類	
	タカブシギ					絶滅危惧Ⅱ類	

²⁰ 重要な鳥類：以下の 6 文献に記載のある種を対象とした。

- ・「文化財保護法」：「文化財保護法」（法律第 214 号，昭和 25 年 5 月 30 日）および文化財保護法に関する条例
- ・「種の保存法」：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（法律第 76 号，平成 4 年 6 月 5 日）
- ・「県条例」：「岐阜県希少野生生物保護条例」（岐阜県条例第 22 号，平成 15 年 3 月）
- ・「市条例」：「岐阜市自然環境の保全に関する条例」（岐阜市条例第 20 号，平成 15 年 3 月）
- ・「環境省 RL」：「環境省レッドリスト-鳥類-」（環境省，2012 年）
- ・「県 RL」：「岐阜県レッドリスト-動物編-」（岐阜県，平成 21 年 3 月）

²¹ 留鳥：一年中同じ場所・地域で生活していて、季節的に住み場所を変えて移動することのない鳥類。

表 6-2 岐阜市内で生息記録のある重要な鳥類(2/2)

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
	ハマシギ					準絶滅危惧	
タマシギ科	タマシギ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ツバメチドリ科	ツバメチドリ					絶滅危惧Ⅱ類	
カモ科	コアシサシ		国際希少野生動植物種			絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ミサコ科	ミサコ					準絶滅危惧	
タカ科	ハチクマ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	チュウビ					絶滅危惧ⅠB類	
	ツミ						情報不足
	ハイタカ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	オオタカ		国内希少野生動植物種			準絶滅危惧	準絶滅危惧
	サシバ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	イヌワシ	天然記念物	国内希少野生動植物種			絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
	クマタカ		国内希少野生動植物種			絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
フクロウ科	オオノハズク						情報不足
	コノハズク						絶滅危惧Ⅱ類
	フクロウ						準絶滅危惧
	アオハズク						準絶滅危惧
カワセミ科	アカショウビン						準絶滅危惧
	ヤマセミ						準絶滅危惧
ブッポウソウ科	ブッポウソウ					絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
ハヤブサ科	ハヤブサ		国内希少野生動植物種			絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ		国内希少野生動植物種			絶滅危惧ⅠB類	
サンショウクイ科	サンショウクイ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
カササギヒタキ科	サンコウチョウ						準絶滅危惧
モズ科	アカモズ					絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
ムシクイ科	センダインシクイ						準絶滅危惧
ヒタキ科	マシロ						情報不足
	トラツグミ						情報不足
	コサビヒタキ						準絶滅危惧
ホオジロ科	ホオアカ						準絶滅危惧
	ノジロ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	クロジ						情報不足
28科	53種	3種	7種	0種	0種	35種	38種

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

- 文化財保護法 特別天然記念物：天然記念物のうち、世界的にまた国家的に価値が高いとして指定されたもの。
天然記念物：学術上価値の高い動物・植物・地質鉱物、およびそれらの存在する地域で、その保護・保存を指定されているもの。
- 種の保存法 国内希少野生動植物：その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動植物の種。
国際希少野生動植物：国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種。
- 環境省 RL 絶滅危惧ⅠA類：(CR)、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
絶滅危惧ⅠB類：(EN)、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧Ⅱ類：(VU)、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧：(NT)、現時点での絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。
情報不足：(DD)、評価するだけの情報が不足している種。
- 県 RL 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。
絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
情報不足：県内において、評価するだけの情報が不足している種。

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (1/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ウズラ <i>Coturnix japonica</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) キジ目 (GALLIFORMES) キジ科 (Phasianidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】全長20cmで体は丸く、全身が茶褐色をしている。本州中部以北で繁殖し、冬は本州中部以南に移動し越冬する。平地から山地の草原に生息するが、野生のものは激減していると言われている。古くは雄の鳴き声を楽しむ目的で飼育され、現在では卵や肉をとる家禽として多く飼われている。近年、野外で見られる本種は飼育されていたものが逃げ出した可能性もある。</p> <p>【県内分布】郡上市高鷲 蛭ヶ野高原では、1980年代までは夏季に雛羽が生息していたが、近年はまったく観察されていない。</p> <p>【市内分布】1971年4月、折立の伊自良川堤防で観察された記録があるだけである。</p>		<p>no photo</p> <p>撮影:</p>
<p>ヤマドリ <i>Syrnaticus soemmerringii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) キジ目 (GALLIFORMES) キジ科 (Phasianidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】本州から九州のよく茂った山林に留鳥として生息している。雄は赤味のある茶褐色で縞模様のある長い尾羽が特徴である。雌はキジの雌と似ているが、褐色味が強い。暗い山林の地上で草や木の実を食べているため、見つけることは困難である。囀りの代わりに翼を強く羽ばたき「ドドッ」という音を出し、「ヤマドリのほろ打ち」と呼ばれている。本種は日本固有種で、5亜種に分けられている。狩猟のため放鳥されている場所がある。</p> <p>【県内分布】県全域の山林に生息しているが、近年はかなりの山奥に行かないと見ることができない。</p> <p>【市内分布】以前は市北部の山林に普通に生息していたが、現在では百々ヶ峰のふれあいの森などに少数が生息する。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>マガン <i>Anguilla japonica</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) カモ目 (ANSERIFORMES) カモ科 (Anatidae)</p> <p>文化財保護法: 国指定天然記念物 環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】古くから「雁渡れ」の歌で親しまれてきた本種は、冬鳥として広い湖沼や水田帯に集団で渡来し、越冬するが、局地的である。県内には定期的に飛来する場所はない。同じ仲間のヒシクイは琵琶湖周辺に多く飛来する。地上を歩きながらイネの落ち穂や雑草の根を食べたり、浅い水面で水草を食べたりする。集団で生活しているが、個々の面白いや幼鳥を連れた家族群で行動している。</p> <p>【県内分布】渡りの途中のものが稀に観察される程度である。県下全域に記録はあるが、美濃地方の記録が多い。</p> <p>【市内分布】1998年11月に本県郡北方町に2羽が飛来し、その後、木田地内の水田に移動しているのが観察された。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>オシドリ <i>Aix galericulata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) カモ目 (ANSERIFORMES) カモ科 (Anatidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】雄の色彩は美しく、風切り羽の内側に帆のような褐色の大きな羽がある。イチョウの葉に似ていることから「銀杏羽」と呼ばれ、雄が雌に求愛するときに使われる。留鳥として北海道から九州までの山間部の溪流で見ることができ、巣は樹洞に作られ、大木のある寺社林や公園などでも繁殖する。冬は平地の池や川で集団で越冬する。仲の良い例えに「オシドリ夫婦」という言葉があるが、実際は抱卵や雛の世話には雌だけで行う。</p> <p>【県内分布】県全域に分布し、飛騨、奥美濃、揖斐地方の溪流沿いの森で繁殖している。冬は東濃、美濃地方でも見られる。</p> <p>【市内分布】百々ヶ峰山麓の松尾池では、毎年、少数が越冬する。長良川でも稀に見られる。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>トモエガモ <i>Anas formosa</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) カモ目 (ANSERIFORMES) カモ科 (Anatidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】全長40cmの小型のカモで、冬鳥として全国の川や池に渡来する。年によって大群が飛来することがあるが、近年は全国的に個体数が減少している。コガモの群れに混じっていることもある。昼間は水面で休み、夜間に付近の水田に移動して、落ち穂や草の実を食べる。雄の顔の色が巴模様に見えることから、この名前が付いている。雌は褐色でコガモの雌に似るがほんの少し大きい。</p> <p>【県内分布】県下全域の河川で観察記録があるが、数は少ない。木曾三川下流域では毎年少数が越冬する。</p> <p>【市内分布】年によって長良川や岐阜大学の池で越冬することがあるが、数は少ない。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (2/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>カイツブリ <i>Tachybaptus ruficollis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) カイツブリ目 (PODICIPEDIFORMES) カイツブリ科 (Podicipedidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】全長26cmで、国内で見られるカイツブリの中では最も小さい。留鳥として全国の河川、池、湖などで見られ、北方のものは、冬は暖地の水辺に移動して越冬する。盛んに潜水して小魚や水生昆虫などを捕らえて食べる。ヨシの茎に水草をつなげて「浮き巣」と呼ばれる巣をつくるが、水位の上昇、下降にしたがって巣も動くようになっている。親鳥は孵化した雛を背のせて移動する行動をする。</p> <p>【県内分布】主に美濃地方の池沼、河川に生息しており、飛騨地方では少ない。冬は小群で生活する。</p> <p>【市内分布】洞地区、岩田地区の溜池では繁殖を確認している。冬は長良、伊自良、鳥羽川などで見られる。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>アオバト <i>Treron sieboldii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ハト目 (COLUMBIFORMES) ハト科 (Columbidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】全長33cmでキジバトと同じくらいの大きさである。体が明るい緑色していることから青鳩と呼ばれるが、頭部から胸にかけては黄色味が強い。鳴き声が「アオー オアオー」と聞こえるところから名が付いた説もある。気味の悪い声はその姿からは想像できず、緑の葉にまぎれるとどこにいるか分からない。全国の山林に留鳥として生息しているが、北方のものは、冬、暖かい地方に移動する。</p> <p>【県内分布】年間を通じて県全域の山林に生息するが、確実な繁殖確認はない。</p> <p>【市内分布】市北部の山林で観察されるほか、金華山では200羽以上の群れが観察されたことがある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>コウノトリ <i>Ciconia boyciana</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) コウノトリ目 (CICONIIFORMES) コウノトリ科 (Ciconiidae)</p> <p>文化財保護法: 国指定特別天然記念物種の保存法: 国内希少野生動物種環境省RL: 絶滅危惧 I A類</p>	<p>【種概要】全身が白色の大きな鳥で、タンチョウなどのツル類の仲間と思われるが別の科に属している。黒く見える部分は尾羽ではなく風切り羽で、飛ぶと翼の後方が黒い。昔の絵画で「松に鶴」と描かれているものは、この鳥である。かつては全国に分布し、繁殖していたが、現在は野生のものは絶滅している。冬季、大陸系の亜種が稀に飛来することもある。兵庫県豊岡市では人工繁殖させた個体を放鳥し、その個体が各地で観察されるようになった。</p> <p>【県内分布】1979年、笠松町市内の木曽川で2羽が観察された。</p> <p>【市内分布】金華山で飛翔する本種が観察されたが、兵庫県豊岡市で放鳥された個体であった。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ヨシゴイ <i>Ixobrychus sinensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ペリカン目 (PELECANIFORMES) サギ科 (Ardeidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧 II類</p>	<p>【種概要】全長37cmで日本産のサギ類の中では最も小さい。体全体が明るい黄褐色で風切り羽が黒く、飛ぶとよく目立つ。名前の通りヨシ原に生息し、ヨシの葉を重ねて巣をつくり、付近の水田などで小魚、カエル、水生昆虫などを捕らえて食べる。夏鳥として全国の広いヨシ原に渡来するが、局地的である。危険がせまると首を伸ばして動かなくなり、ヨシに擬態する。この擬態は巣の中の雛も行う。</p> <p>【県内分布】過去には飛騨、美濃地方ともに観察記録があるが、近年はまったく観察されていない。</p> <p>【市内分布】1977年7月、折立地内の湿地(現岐阜大学敷地)で観察された記録があるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>オオヨシゴイ <i>Ixobrychus eurhythmus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ペリカン目 (PELECANIFORMES) サギ科 (Ardeidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類</p>	<p>【種概要】夏鳥とし本州中部以北から北海道に飛来し、広いヨシ原のある河川敷や湖沼に生息するが局地的である。冬は東南アジアに渡る。中部地方に確実な渡来地はなく、渡りの途中のものが稀に観察される程度である。危険を感じると首を上へ伸ばし、胸を外敵の方向に見せ、じっとする。胸にある縦斑が周囲の環境に溶け込んで、目立たないように身を隠す行動と思われる。</p> <p>【県内分布】高山市、東濃地方で観察されたことはあるが、いずれも1羽で渡りの途中のものと思われる。</p> <p>【市内分布】1989年10月、渡りの途中のものと思われる個体が加納地内の人家で保護された。</p>		 <p>撮影: 福井強志</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (3/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ミゾゴイ <i>Gorsachius gousagi</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ペリカン目 (PELECANIFORMES) サギ科 (Ardeidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州から九州の低山の林に渡来する。夕方から夜にかけて「ポーッポーッ」と低い声で鳴き、「山いぼ」と呼ぶ地方もある。常緑の広葉樹林や杉林の暗い地上でミズやサワガニを食べており、見かけることは困難である。樹上に小枝を重ねて巣を作るが、危険を感じると親鳥や雛は直立姿勢で動かなくなり、周囲の環境に擬態する。観察ににくい鳥なので存在が知られないまま環境が開発されてしまうことがある。</p> <p>【県内分布】県内各地で観察された記録があり、高山市と郡上市では繁殖した記録がある。</p> <p>【市内分布】金華山麓の林内で観察されたことがあるが、繁殖については不明である。</p>		 <p>撮影: 面高俊行</p>
<p>チュウサギ <i>Egretta intermedia</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ペリカン目 (PELECANIFORMES) サギ科 (Ardeidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】シラサギの仲間では体が大きいものからダイサギ、チュウサギ、コサギといるが、本種は名前の通りコサギとダイサギの中間の大きさである。夏羽では嘴が黒いが、冬羽では黄色くなる。夏鳥として全国の水田や湿地に渡来するが、暖かい地方で越冬する個体もいる。サギ類は他のサギ類と混じって集団で繁殖し、その場所をコロニーと呼んでいる。コロニーでは雛たちの「ギャップギャップ」という騒がしい声や糞や魚の腐った匂いなどがして、周辺の住民に嫌がられている。</p> <p>【県内分布】美濃地方で他のサギ類とコロニー繁殖した記録がある。</p> <p>【市内分布】市内の広い水田で毎年、少数が観察される。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ヒクイナ <i>Porzana fusca</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ツル目 (GRUIFORMES) クイ科 (Rallidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の湿地や休耕田のある水田に渡来するが、暖かい地方で越冬する個体もいる。ムクドリ位の小型のクイナで、全身が赤っぽい褐色をしている。「キョッキョッキョッ…」と次第にテンポが速くなる声で鳴く声が、「クイナの戸を叩く音」と親しまれていた。警戒心が強く、人の姿を見ると小走りに草地に逃げ込んでしまい、生息していることを確認するのが困難である。近年、ヒクイナの好む湿地が少なくなっている。</p> <p>【県内分布】県下の河川流域、池沼、休耕田で見られる。高山市内で幼鳥が保護されたことがある。</p> <p>【市内分布】2006年7月、木田地内の休耕田で1羽観察されたほか、過去には金華山東部の湿地で越冬したことがある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヨタカ目 (CAPRIMULGIFORMES) ヨタカ科 (Caprimulgidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の草原や明るい林に渡来し、林道沿いの草地などで繁殖する。特に巣らしいものは作らず、直接地面に卵を産んでいることもある。夕方から夜間にかけて飛びながら昆虫を食べる。捕らえるというより口を大きく開き、飛び込んでくる虫を食べている。昼間は木の横枝に平行にとまって休み、まるで木のこぶのように見える。「キョッキョッキョッ…」と連続的に鳴く。</p> <p>【県内分布】以前は県下各地の山林で囀りを聞いたが、近年は繁殖地が減少している。</p> <p>【市内分布】稀に鳴き声の記録があるが、渡りの途中のものと思われる。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ハリオアマツバメ <i>Hirundapus caudacutus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) アマツバメ目 (APODIFORMES) アマツバメ科 (Apodidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】アマツバメより一回り大きく、翼の幅がかなり広い。アマツバメの尾は燕尾形であるが、本種は角ばっていることで識別できる。尾の先には名のように針状の尾羽が付いている。夏鳥として渡来し、全国の山地で見ることができ、繁殖場所は大木の樹洞である。山林に囲まれた溜池のような広い水面で、朝夕、水を飲んだり水浴びをしたりする。渡りの時期には平地でも観察できる。</p> <p>【県内分布】1993年、高山市新徳高山麓の山林で繁殖が確認された。渡り途中の記録は各地にある。</p> <p>【市内分布】春と秋、渡りの途中のものが、毎年観察される。数十羽の群れで出現することがある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (4/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ケリ <i>Vanellus cinereus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) チドリ目 (CHARADRIIFORMES) チドリ科 (Charadriidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】大型のチドリで農耕地や河川敷で繁殖する。留鳥として本州に分布するが、局地的で近畿地方、東海地方の農耕地では普通に見ることができる。河川敷や田起こしをした水田の地面に枯草で巣を作り、抱卵中や育雛中に外敵が近づくと「キリッ キリッ」と激しく鳴き威嚇する。この威嚇の声で、付近で繁殖している個体加わり、外敵の頭上を集団で飛び回る。</p> <p>【県内分布】主に美濃地方の広い水田地帯で繁殖するが、近年は飛騨地方でも見られるようになった。</p> <p>【市内分布】水田地帯に広く分布しているが、最近、繁殖成功率が低下しているという報告がある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>シロチドリ <i>Charadrius alexandrinus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) チドリ目 (CHARADRIIFORMES) チドリ科 (Charadriidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】九州以北に留鳥として分布するが、北海道では夏鳥である。海岸や河川下流域の砂地、砂礫地で主に繁殖する。冬は群れで生活し、ハマシギと混群をつくっていることがある。よく似た種類にコチドリ、イカルチドリがいるが、本種は首の部分の黒い帯が前方で切れていることで識別できる。河川中流域では稀であるが、コアジサシのコロニー内で同居していることがある。</p> <p>【県内分布】美濃地方の大きな河川の砂礫地や中州で観察されるが、数は少ない。</p> <p>【市内分布】長良川の中州でコアジサシが繁殖していたとき、コロニー内で少数が繁殖していた。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>セイタカシギ <i>Himantopus himantopus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) チドリ目 (CHARADRIIFORMES) セイタカシギ科 (Recurvirostridae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】名前の通り、紅色をした長い足が特徴で、体の白と黒のコントラストがはっきりしている。以前は旅鳥として渡来しており数は少なく珍しい鳥であったが、近年は繁殖地が局地的に見つかっている。水田や池沼の湿地で生活し、水生昆虫を食べるが、背が高い分、他のシギ類より深い場所で採食している。冬は数十羽の集団で越冬している場所がある。</p> <p>【県内分布】春と秋、渡りの途中のものが美濃地方の河川、水田で観察されるが、1~2羽のことが多い。</p> <p>【市内分布】一日市場の長良川河川敷で2個体観察された。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) チドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopaciidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州中部以北の高原や北海道では牧場、湿原などに渡来し、繁殖する。冬季はオーストラリア南部に渡る。繁殖地では飛びながら「ズビーヤク ズビーヤク」と鳴きながら急降下するディスプレイを行う。急降下するとき尾羽を開いて「ザザザ…」と大きな音も出す。渡りの途中には平地の水田や湿地で見られるが、同属のタシギ、チュウジシギと類似しており、識別には注意が必要である。</p> <p>【県内分布】郡上市高鷲 蛭ヶ野高原では、毎年数番いが繁殖する他、過去には高山市、飛騨市での生息記録がある。</p> <p>【市内分布】渡り途中の個体が水田地帯で観察されるが、他のジシギ類との識別は困難である。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ツルシギ <i>Tringa erythropus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) チドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopaciidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】旅鳥として春と秋、渡りの途中のものを観察できる。内陸の水田や湿地を好み、春、シギ類としては早い時期に飛来する。水中を歩きながらオタマジャクシや水生昆虫を捕えて食べる。夏羽では全身が黒くなり、他の種と見間違えることはないが、冬羽では褐色になりアカアシシギと類似する。下嘴が赤い色をしていることで識別できる。写真の個体は夏羽から冬羽に移行する途中で、胸の部分に夏羽の黒色が残っている。</p> <p>【県内分布】春と秋、渡り途中の個体が稀に観察される程度で、美濃地方の記録が多い。</p> <p>【市内分布】1984年4月、曾我屋地内の用水で1羽が観察された。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (5/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>タカブシギ <i>Tringa glareola</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヱドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopacidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】全長20cmの小型のシギで、旅鳥として春と秋、渡りの途中のものを観察できる。内陸の水田や湿地、河川敷を好み、干潟に出ることは少ない。水中を歩きながら水生昆虫などを食べている。秋は8月下旬頃から水を張った休耕田で数羽から十数羽の群れで観察できるが、暖かい地方では越冬するものもいる。クサシギと類似しているため識別には注意が必要である。</p> <p>【県内分布】渡り途中の個体が県下の水田地帯で観察され、県内を通過するシギ類では最も普通に見る種である。</p> <p>【市内分布】木田、佐波、高桑地内の水田では、毎年、渡り途中の個体を見ることができる。秋の方が多い。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ハマシギ <i>Calidris alpina</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヱドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopacidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】冬鳥または旅鳥として全国の水辺に渡来する。夏羽では背中が茶褐色で腹部が黒くなることで他種と間違えることはないが、冬羽では全体に色が薄くなる。冬は十数羽から100羽を超える大きな群れで生活し、シロチドリと一緒にいることもある。嘴が下に少し湾曲しているのが特徴である。広い干潟に多いことが多いが、中流域の河川や内陸の水田で渡り途中のものを観察することもできる。</p> <p>【県内分布】春と秋、渡り途中の個体が河川や水田で観察されるが、木曾三川下流域では数十～数百の群れで越冬する。</p> <p>【市内分布】長良川河川敷で越冬している個体が観察されることがある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>タマシギ <i>Rostratula benghalensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヱドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopacidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】雌雄ともに目の周囲に勾玉模様があることから、この名前が付いている。本州中部以南の内陸の水田や湿地に留鳥として生息しているが、近年は冬に見られる個体が少なくなった。一妻多夫という珍しい繁殖形態をもち、抱卵、子育ては雄が行う。繁殖地では、雌は夕方、なわばり宣言の「コーコー」という声を出して雄を誘う。役割が逆転していることで雌の方が羽色が派手である。</p> <p>【県内分布】主に美濃地方の休耕田や湿地で繁殖するが、数は少なく、飛騨地方では稀に観察される程度である。</p> <p>【市内分布】木田、佐波、三輪地内の水田で繁殖期、観察されていたが、数は激減している。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ツバメチドリ <i>Glaucola maldivarum</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヱドリ目 (CHARADRIIFORMES) シギ科 (Scolopacidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】主に旅鳥として農耕地や海沿いの草地などに飛来するが、九州や本州の埋め立て地、砂礫地では局地的に集団で繁殖する。特に決まった繁殖地があるわけではなく、数年たつと繁殖地を変えてしまうことがある。飛びながら飛翔性の昆虫を食べるが、飛んでいる姿がツバメに似ていることからこの名が付いている。全身が淡褐色をしているので地面に降りていると見つけにくい。</p> <p>【県内分布】美濃地方で渡り途中の個体が稀に観察される程度である。揖斐郡池田町、羽島市、海津市で記録がある。</p> <p>【市内分布】2010年8月、曾我屋地内の水田で2羽観察された記録があるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>コアジサシ <i>Sterna albifrons</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ヱドリ目 (CHARADRIIFORMES) ガモ科 (Laridae)</p> <p>種の保存法: 国際希少野生動物種 環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の海岸、河川などに渡来し、砂浜や河川の中州などで集団で繁殖する。地面に直接、あるいは枯草などをほんの少し敷いただけの巣を作り、2～3卵を産む。空中をホバリングしながら狙いを定めて水中に飛び込み、小魚を捕えて食べる。外敵には「キリキリッ」と鳴いて集団で威嚇したり、糞をかけたたりしてコロニー内から追い出す。カラス類はこの攻撃を気にすることなく、卵や雛を食べしてしまう。</p> <p>【県内分布】木曾、長良、揖斐川の中州で繁殖した記録がある他、飛騨市や土岐市では渡り途中の個体が観察された。</p> <p>【市内分布】一日市場の長良川河川敷、西中島地内の造成地でコロニー繁殖したことがある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (6/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) ミサゴ科 (Pandionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】トビと同じ位の大きさで、全国に留鳥として分布する。海岸の断崖や樹木で繁殖するが、近年は内陸での繁殖も知られるようになった。また、河川中流域や内陸の湖沼でも見られる。飛翔中は、細長い翼に体下面が白っぽく見えるのが特徴である。魚食性のタカで、空中でホバリングしながら狙いを定め、水中に飛び込んで魚を捕食する。</p> <p>【県内分布】渡り途中の個体が県下各地で観察されるほか、最近では河川流域で通年見られるようになった。飛騨地方では繁殖が確認された。</p> <p>【市内分布】餌を求めて河川上空を飛翔する個体が観察される。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ハチクマ <i>Pernis ptilorhynchus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州以北の低山の林で繁殖する。トビより一回り小さく、頭部が長く見えるのが特徴である。地中に巣を作るクロスズメバチの幼虫や蛹を好んで食べるため、ハチの好きなクマタカという意味の名前が付いている。渡りは瀬戸内沿岸から九州北部を通過するルートが分かっており、長野県白樺峠や伊良湖岬など、ルートの途中によく知られた観察地がある。岐阜市金華山もその一つである。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯の山林で繁殖するが、個体数は多くない。</p> <p>【市内分布】渡りで通過する個体が多く観察されるほか、市北部の山林では少数が繁殖する。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>チュウヒ <i>Circus spilonotus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類</p>	<p>【種概要】本州近畿地方以北の広いヨシ原のある河口部や干拓地などで局地的に繁殖するが、繁殖環境が少なくなっていることで個体数が減少している。西日本では冬鳥としてヨシ原のある場所で越冬する。河川に沿って低空飛翔しながら、空中から降下してネズミや小鳥を捕食する。多くは河口部付近で見られ、中流域まで来るとは少ない。トビより小さくほっそりしていて、ひらひら飛びながら翼がV字形に見えることで識別できる。</p> <p>【県内分布】県南部の水田地帯、河川流域で観察されるが、数は少ない。高山市や下呂市荘川での観察記録もある。</p> <p>【市内分布】日置江地内の長良川河川敷を飛翔する個体が観察された。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ツミ <i>Accipiter gularis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】全長が30cm以下でキジバトより小さく、日本では最も小さなタカである。昆虫や小鳥を捕食する。全国的に平地から低山の林に分布し、中部地方や関東地方では市街地の公園でも繁殖しているが局地的である。本州北部のものは冬は暖かい地方に移動し越冬するため、秋に南西に渡る個体が各地で観察される。大きさを飛んでいるときの姿がハイタカに似るため識別は注意が必要である。</p> <p>【県内分布】加茂郡と高山市の山林で繁殖した記録がある。渡り途中の個体は各地で観察できる。</p> <p>【市内分布】渡り途中の個体が観察される。秋の方が多。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ハイタカ <i>Accipiter nisus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】雄は雌に比べると小さく、ツミに類似しているが、ツミよりほんの少し大きく、尾が長く見える。雌はオオタカに類似しているため、識別には注意が必要である。本州以北の山林で繁殖し、冬は平地の林や暖かい地方に移動し越冬する。河川敷の林でも越冬個体を見ることができる。林の中を巧みに飛んで主に小鳥類を捕食するが、ネズミやリスも食べる。</p> <p>【県内分布】飛騨地方の山林で繁殖する。冬は美濃地方の山林や河川敷の林でも見ることができる。</p> <p>【市内分布】渡り途中の個体を観察するほか、市北部の山林や河川敷の林で、少数が越冬する。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (7/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>オオタカ <i>Accipiter gentilis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>種の保存法: 国内希少野生動物植物種 環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】ハシボソガラスとはほぼ同じ大きさで、背が淡い褐色、体下面が白っぽく見える。古くは着鷹と呼ばれていたが、着には褐色味のある青という意味があり、オオタカがオオタカに転じたという説がある。幼鳥は全体が褐色で胸に縦斑があることで区別できる。留鳥として本州、北海道の低山の林で繁殖し、冬はカモなどが集まる水辺の林や農耕地でも見られる。近年、河川敷の林でも繁殖する個体が見られるようになった。</p> <p>【県内分布】県下全域の低山の山林で繁殖するほか、近年は河川敷の林などでも繁殖する個体がいる。</p> <p>【市内分布】百々ヶ峰や金華山のほか、市北部の山林で少数が繁殖している。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>サンバ <i>Butastur indicus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の低山の林に渡来し、繁殖するオオタカ位の大きさのタカである。沖縄や宮古島で越冬する個体もいる。全身は褐色をしているが、稀に黒褐色の個体がいる。谷地のある林を好み、カエルやヘビを捕食する。渡りのルートが決まっており、ルート上の場所では多くの個体数が見られるため観察地となっている。愛知県伊良湖岬や長野県白樺峠が有名である。岐阜市金華山もその一つである。</p> <p>【県内分布】県下全域の低山の山林で繁殖するが、谷地の水田が放棄されるようになり、繁殖地が減少した。</p> <p>【市内分布】百々ヶ峰などで僅かであるが繁殖する。渡り途中の個体を普通に観察することができる。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>イヌワシ <i>Aquila chrysaetos</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>文化財保護法: 国指定天然記念物種 種の保存法: 国内希少野生動物植物種 環境省RL: 絶滅危惧ⅠB類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】翼を開くと2mもある大型のタカで、九州から本州の山地に留鳥として生息している。標高の高い山地の岩場で繁殖するが、九州や中国地方では現在繁殖は確認されていない。ヤマドリやノウサギ、ヘビなどを捕食する。10km四方もある広い行動圏を汎翔しながら餌を探し、獲物を見つけると急降下して捕える。生息地が開発されることで、個体数が激減している。</p> <p>【県内分布】白山山系、伊吹山系、北アルプスなどで僅かに繁殖するが、個体数は激減している。</p> <p>【市内分布】本来の生息地ではないが、本種は広い行動圏を持っており、稀に飛翔個体が観察される。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>クマタカ <i>Nisaetus nipalensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) タカ目 (ACCIPITRIFORMES) タカ科 (Accipitridae)</p> <p>種の保存法: 国内希少野生動物植物種 環境省RL: 絶滅危惧ⅠB類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】大型のタカで帆翔中は翼幅が広く、やっこ凧のように見える。九州以北の標高500～1500mの山地に留鳥として生息し、モミヤゴヨウマツ、コマツガなどの大木の樹上に大きな巣を作る。狩りの方法としては、枝上で待ち伏せして、獲物を見つると上から襲いかかる。キジ、ヤマドリなどの鳥類の他、ノウサギ、リス、ヘビなどを捕食する。産卵数は1個で、毎年連続して繁殖することは少ない。</p> <p>【県内分布】県下全域の標高500m以上の山林に繁殖し、飛騨地方では個体数が多い。</p> <p>【市内分布】本種は定着性が強く、岐阜市は本来の生息地ではないが、飛翔個体が観察された記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>オオコノハズク <i>Otus lempiji</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) フクロ目 (STRIGIFORMES) フクロ科 (Strigidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】コノハズクに色彩は似ているが、全長24cmでコノハズクより一回り大きい。北海道では夏鳥で、本州では留鳥として平地から山地の林に分布する。冬は平地の雑木林や竹林で越冬するが、夜行性のため目にするのはほとんどない。コノハズクの虹彩が黄色いのに対し、本種は橙色なので区別できる。「ウオウオウ」と低い声で鳴くが、聞く機会はほとんどない。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯に生息するが、夜行性で生態がはっきりしない。飛騨地方や揖斐郡で繁殖の記録がある。</p> <p>【市内分布】1984年1月、黒野地内で2羽が別々に保護された記録があるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (8/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>コノハズク <i>Otus sunia</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) フクロ目 (STRIGIFORMES) フクロ科 (Strigidae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【種概要】全長20cm程の日本では最小のフクロウ類で、夏鳥として本州と北海道に渡来する。体の割に大きな声で「ブッキョッコー」と鳴き、仏法僧と聞きなされている。山奥の深い森に生息し、樹洞で繁殖するが、奥山が開発されることで生息地がなくなっている。夕方から夜間にかけて活動し、主に昆虫を捕食しており、昼間は動かさずじっとしている。とまっている時は、全身が褐色なので木の一部分のように見える。</p> <p>【県内分布】飛騨地方、掛斐郡など標高の高い山林での繁殖している可能性があるが、生息地はよく分からない。</p> <p>【市内分布】尻毛地内で保護された個体がいるほか、奥、古津地内の山林で轉りが確認された。渡り途中と思われる。</p>		 <p>赤色型</p> <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>フクロウ <i>Strix uralensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) フクロ目 (STRIGIFORMES) フクロ科 (Strigidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】全長50cmもある本州では最も大きなフクロウで、九州以北の平地から低山の林に留鳥とし生息し、大木の樹洞で繁殖する。カラスやタカのご巣、巣箱なども利用する。灰褐色で他のフクロウ類より白っぽく見える。顔が平面的で目が前についているのがフクロウ類の特徴である。「ホホッ ホッホッホッ」と低い声で鳴く。夜間に活動し、ネズミやカエル、小鳥類を襲って食べる。</p> <p>【県内分布】県下各地の丘陵帯の山林や大木のある寺社林で繁殖している。</p> <p>【市内分布】金華山や百々ヶ峰のほか、市北部の山林で少数が繁殖している。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>アオバズク <i>Ninox scutulata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) フクロ目 (STRIGIFORMES) フクロ科 (Strigidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の平地から低山の林に渡来する。樹洞で繁殖するため、大木のある市街地の公園や寺社林でも見られることがあるが、近年は渡来数が減少している。キジバトより一回り大きく、青葉の頃に渡ってくるからとか、羽色が青葉のようであることから名がついている。夜間、飛び回って昆虫やコウモリ、小鳥の雛を襲って食べる。</p> <p>【県内分布】県下各地の丘陵帯の山林や寺社林、市街地の公園などで繁殖するが、近年、繁殖地が減少している。</p> <p>【市内分布】以前は市内の大木のある寺社林や公園でも繁殖が見られたが、最近は少なくなった。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>アカショウビン <i>Halcyon coromanda</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ツボウク目 (CORACIIFORMES) カケセ科 (Alcedinidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の溪流沿いの深い森に渡来し、朽ちた木の洞やキツツキ類の開けた穴などで繁殖する。キイロスズメバチのご巣を利用することもある。全身が黄色を帯びた赤い色でよく目立つが、暗い林の中において姿を見ることは困難である。雨の日に「キョロロー」と尻下がりで鳴くことが多く、「雨乞鳥」とか「水恋鳥」と呼ばれている。トカゲやカエル、昆虫を捕食する。</p> <p>【県内分布】県内の丘陵帯から山地帯の溪流沿いの森で繁殖するが、かなり繁殖個体は減少している。</p> <p>【市内分布】本来の生息地でなく、渡り途中の個体が観察されるだけである。声で確認されることが多い。</p>		 <p>撮影: 亀山正道</p>
<p>ヤマセミ <i>Megaceryle lugubris</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ツボウク目 (CORACIIFORMES) カケセ科 (Alcedinidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】全長38cmで日本に生息するカワセミ類では最大である。九州以北の河川中流域から上流域に留鳥として生息し、主に魚を捕食する。川に突き出た横枝にとまり、魚を見つけると水中に飛び込んで捕食する。時には水面上空でホバリングして魚を探す。川岸の土手や山の崖に穴を掘り、巣とする。興奮したり警戒したりするときには、頭の冠羽を広げる。</p> <p>【県内分布】県下全域の河川中流域から上流域にかけて見られるが、最近は繁殖個体が減少している。</p> <p>【市内分布】1990年代は日野地内の長良川で越冬していたが、最近は観察することができなくなった。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (9/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ブッポウソウ目 (CORACIIFORMES) ブッポウソウ科 (Coraciidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I 類</p>	<p>【種概要】夏鳥として九州から本州の山地に渡来するが、繁殖地は局地的である。キツツキ類の開けた穴を巣にするが、橋桁の穴や巣箱を利用することもある。以前は大木のある寺社などで見られていたが、近年はそのような繁殖地は少なくなった。西日本では巣箱を利用して本種の繁殖環境を作り、成功している所もある。昔は「仏法僧」と鳴く鳥は本種と思われていたが、実際に鳴くのはコノハズグである。</p> <p>【県内分布】美濃市洲原神社、金山町祖師野神社、揖斐川町藤橋などで繁殖していた記録があるが、現在は白山山系で僅かに見られるだけである。</p> <p>【市内分布】渡り途中の個体が観察された記録が2例ある。</p>		 <p>撮影: 福井強志</p>
<p>ハヤブサ <i>Falco peregrinus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) ハヤブサ目 (FALCONIFORMES) ハヤブサ科 (Falconidae)</p> <p>種の保存法: 国内希少野生動物種 環境省RL: 絶滅危惧 II 類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】全国に留鳥として生息し、海岸の断崖で繁殖する。近年、内陸へ分布が広がり、内陸部の山地の崖でも繁殖地が見つっている。主に小型の鳥類を餌としているが、飛んでいる鳥を速いスピードで追いかけて、空中で捕食する。飛んでいるとき、翼の先が尖って見えるのが特徴で他のタカ類と区別できる。冬は河川敷や農耕地でも見かける。</p> <p>【県内分布】一年を通じて県下各地で観察の記録がある。</p> <p>【市内分布】2000年代以降、金華山の断崖で繁殖するのが確認されるようになり、2007年に初めて巣立ちが成功した。その後も毎年、繁殖している。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ヤイロチョウ <i>Pitta nympha</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ヤイロチョウ科 (Pittidae)</p> <p>種の保存法: 国内希少野生動物種 環境省RL: 絶滅危惧 I B類</p>	<p>【種概要】頭部は茶褐色、背が緑、腹部が赤いなど多彩な色の美しいことから八色の名がつけられた。夏鳥として主に九州や四国に渡来するが、近年は中部地方でも観察されることがあり、局地的に繁殖地している。派手な鳥だが暗い林の中において、姿を見るのは困難である。「ポポビー ポポビー」と特徴的な声で囀ることで存在が分かる。地上に降りてミミズや昆虫を食べる。</p> <p>【県内分布】渡りの途中と思われるものが確認されているが、本種は姿を確認することは難しく、囀りによるものである。</p> <p>【市内分布】1993年6月、三田洞地内の山林で観察撮影された記録があるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) サンショウクイ科 (Campephagidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 II 類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】鳴き声が「ピリリリ ピリリリ」と聞こえ、「山椒は小粒でもピリリと辛い」という言葉からこの名が付いている。全長が20cmでツートンカラーのスマートな姿をしている。夏鳥として九州と本州に渡来し、平地から低山の山林に生息する。横枝にコケとクモの糸で張り付けるように巣を作る。南西諸島にリュウキュウサンショウクイという亜種がいるが、近年、九州でも確認されるようになった。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯から山地にかけて広く分布するが、繁殖の確認は減少している。</p> <p>【市内分布】1970年代は市内の山林で普通に繁殖していたが、現在は渡りの時期に確認されるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) カササギヒタキ科 (Monarchidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州以南の平地から低山の茂った林に渡来し、暗い林で繁殖する。雄は30cmもある長い尾を持ち、林内をひらひらと飛び回る。「チーチョホイ ホイホイホイ」とテンポのよい声で囀るが、「月日星」と聞きなされ、三光鳥と呼ばれている。雌は雄ほど尾羽が長くないが、雄のように囀る。人気のある鳥で生息地には多くのカメラマンが押しかけ、繁殖を妨げるといふ問題も起こっている。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯の山林で繁殖しているが、渡来地は少ない。</p> <p>【市内分布】金華山、百々々峰など僅かであるが、繁殖個体を確認できる。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等(10/11)

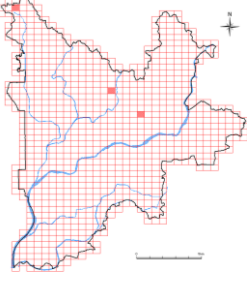

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>アカモズ <i>Lanius cristatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) モズ科 (Laniidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧ⅠB類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州から北海道にかけて渡来し、平地から山地の明るい林の林縁部や灌木のある草地に生息する。全長20cmでモズとほぼ同じ大きさだが、頭上から背にかけて赤褐色をしている。習性もモズに似ていて、木の枝や杭の上にとまり地上に降りて昆虫を捕食する。捕えた昆虫やトカゲを枝の先に刺して「はやにえ」を作る習性も同様である。</p> <p>【県内分布】1990年代、高山市内で繁殖が確認されていたが、現在は見られなくなった。</p> <p>【市内分布】1991年8月、合渡地内の長良川河川敷の林で渡り途中の個体が観察されただけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>センダイムシクイ <i>Phylloscopus coronatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ムシクイ科 (Phylloscopidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として九州以北の低山の落葉広葉樹林に好んで生息する。全長13cmで体の上面はオリーブ緑色、下面は白色をしている。繁殖期は「チヨチヨビー」と特徴ある声で轉り、「焼酎一杯グイー」と聞きなされる。メボソムシクイ、エゾムシクイと類似しており、頭の中央に薄い線があること、他のムシクイ類より緑味が強いことで識別できるが、渡りの時期には轉らないことがあり、慣れないと難しい。</p> <p>【県内分布】県下各地の丘陵帯の林に渡来するが、繁殖地が減少している。</p> <p>【市内分布】春と秋、渡り途中の個体が観察されるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>マミジロ <i>Zoothera sibirica</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ヒタキ科 (Muscicapidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】全長24cmでツグミとほぼ同じ大きさ。雄は全身が黒く、目の上の部分(眉班)が白いのが特徴で、本種の名前もこの色彩からきている。雌は上面がオリーブ褐色で、胸部に褐色の斑点があり、雄とは色彩が異なる。夏鳥として本州中部以北の山地に渡来し、ブナ林や落葉広葉樹林に生息する。地上を歩行しながら昆虫類を捕食する。轉りは「キョロン チリイ」とか「チヨボーイチャー」とはっきりした声である。</p> <p>【県内分布】以前は飛騨地方、奥美濃地方で繁殖していた可能性があるが、近年は観察されることも減少してきた。</p> <p>【市内分布】2009年5月、岩戸地内の山林で落鳥した個体が発見されただけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>トラツグミ <i>Zoothera dauma</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ヒタキ科 (Muscicapidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】全長30cmでツグミ類の中では最も大きい。上面が黄褐色で下面にうろこ模様の斑点があるのが特徴で、トラという名もここからきている。全国の平地から山地の林内に留鳥として生息し、冬は暖かい地方に移動する。暗い林内の地上でミズや昆虫を捕食している。夜間や雨天の暗い日、「ヒー ヒョー」と気味悪い声で鳴くが、昔は「鶺鴒」という怪物の声とされていた。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯から山地帯の山林で生息し、繁殖しているが、最近では生息確認が減ってきている。</p> <p>【市内分布】以前は金華山、百々ヶ峰や北部の山林で繁殖していた可能性が高いが、近年は轉りが聞かれなくなった。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ヒタキ科 (Muscicapidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として全国の平地から低山に渡来し、明るい落葉広葉樹林に生息する。枝先にとまって、飛んでいる昆虫を空中で捕え、また元の枝に戻るといった行動をする。渡りの時期には、市街地の公園などにも現れる。同じ仲間のサメビタキやエゾビタキも同時に見られることがあり、本種は全体に色が淡く、目の周りの白いリングがはっきりしているのが特徴である。</p> <p>【県内分布】県下全域の丘陵帯の里山的環境で繁殖していたが、近年は生息地が減少している。</p> <p>【市内分布】渡り途中の個体が観察されるが、秋の方が多い。三田洞地内の山林で繁殖したらしいという観察記録がある。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

表 6-3 重要な鳥類の概要等 (11/11)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ホオアカ <i>Emberiza fucata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ホオジロ科 (Emberiza)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】全国的に分布し、本州中部では高原に、北日本では平地の草原で局地的に繁殖している。冬は暖かい地方や平地の草地に移動するが、ひっそりと生活しているのを見つけにくい。繁殖期は昆虫食であるが、冬は水田の畔や河川敷の草地の地上で、雑草の種子を食べる。色彩は他のホオジロ類と似ているが、顔の頬の部分にある赤褐色の部分特徴で、名前の由来となっている。</p> <p>【県内分布】1970年代には郡上市高鷲 蛭ヶ野高原一帯で20番い以上が繁殖していた記録があるが、現在は減少した。</p> <p>【市内分布】渡りの時期に水田地帯や河川敷の草地で稀に観察できる程度である。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>ノジコ <i>Emberiza sulphurata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ホオジロ科 (Emberiza)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p>【種概要】夏鳥として本州中部や北部の山地の林に渡来し、明るい広葉樹林に生息するが、繁殖地は局地的である。西日本の暖かい地方で越冬する個体もいる。アオジに似るが、本種は全身がオリーブ緑色で目の周りの白いリングがはっきりしているのが特徴である。昆虫や雑草の種子などを食べる。渡りの時期には平地の林、農耕地や河川敷の草地などで見ることができる。</p> <p>【県内分布】高山市や郡上市などで局地的に繁殖しているが、毎年確実に見られるところは少ない。</p> <p>【市内分布】渡りの途中と思われる個体が観察された記録があるだけである。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>
<p>クロジ <i>Emberiza variabilis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) ホオジロ科 (Emberiza)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p>【種概要】本州中部以北の山地に生息し、ササの茂った落葉広葉樹林や針葉樹林帯で繁殖するが、局地的である。日本海側の地方に多く、冬は暖かい地方や西日本の林に移動するが、暗い地上部で生活しているのを見つけにくい。雄は全身が黒味の強い色彩で他のホオジロ類と間違えることはないが、雌は褐色でホオジロに似ている。雄と雌では別の種のように見える。</p> <p>【県内分布】揖斐郡坂内や藤橋地内で囀っていた記録があり、繁殖の可能性はあるが、確認はされていない。</p> <p>【市内分布】百々ヶ峰の山林で越冬しているのが観察されたほか、金華山のドライブコースでは割れた椎の実を食べる個体が毎年観察される。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>

6-4 外来生物法に係る鳥類

外来生物法に記載されている鳥類のうち、特定外来生物として指定されている鳥類は、ガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウ、ソウシチョウの4種で、いずれもチメドリ科に属している。チメドリ科の鳥は主に東南アジア、インド、アフリカなどに生息し、日本には自然分布していない。これらの鳥は愛玩用として輸入され、飼育下から逃げ出し野生化したものと思われる。また、要注意外来生物としてはインドクジャク、コリンウズラ、オオカナダガンなど10種が指定されている。

これら外来生物法に記載されている14種の鳥類の内、表6-4のとおり特定外来生物として指定されているソウシチョウのみが岐阜市内で観察されている。県全域においてもソウシチョウが記録されているだけである。1995年7月、金華山麓で4羽の群れが観察されたのが最初の記録である。その後の群れは見当たらず、移動途中のものと思われた。2005年頃から多治見市や加茂郡八百津町など東濃地域で冬季に見られるようになり、岐阜市においても2007年2月に金華山で数羽が越冬しているのが発見された。この個体は登山者がヤマガラに与えるピーナッツを食べていた。2008年5月には石谷地内の山林で囀る個体が観察されたが、定着することはなかった。2010年には古津～三田洞地内の百々ヶ峰山麓で十数羽が越冬し、金華山でも数羽の越

冬個体がいた。本種は関東地方以西に広く分布し、標高 1,000m 以上のササ類の発達した落葉広葉樹林で繁殖することが多いと言われているが、今のところ県内では繁殖期間内で本種を確認しておらず、繁殖はしていないと思われる。岐阜市内での繁殖の可能性は低いが越冬個体が増える可能性は高く、今後の動向を見ていきたい。

外来生物法に係る鳥類の概要・分布状況などについては、表 6-5 のとおりである。

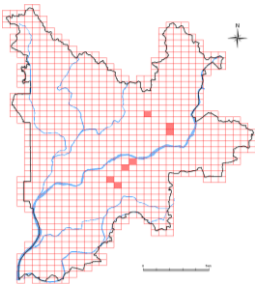

表 6-4 生息記録のある外来生物法に係る鳥類

科名	和名	外来生物法
チドリ科	ソウシチョウ	特定外来生物

注) 表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

外来生物法 特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

表 6-5 外来生物法に係る鳥類の概要等

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p>ソウシチョウ <i>Leiothrix lutea</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 鳥綱 (AVES) スズメ目 (PASSERIFORMES) チドリ科 (Timaliidae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p>【種概要】中国西南部からインドシナ半島にかけて分布し、美しい色彩と大きな声で囀ることから、ペットとして多く輸入された。日本には自然分布しておらず、飼われていた個体が逃げ出し、野生化したものである。関東地方以西に多く、標高500～1,000mのササ原で繁殖し、冬は低い山の林に移動する。登山者によって餌付けされていることもある。近年、生息地を広げており、場所によっては優占種となっている。</p> <p>【県内分布】多治見市や美濃加茂市では越冬個体が確認されている。今のところ、繁殖期の観察例はない。</p> <p>【市内分布】百々ヶ峰や金華山で教羽から十羽程度が越冬しているのが観察されている。</p>		 <p>撮影: 大塚之稔</p>